

令和8年度 港区立三田中学校 学校経営計画

I 学校経営方針

生徒が生涯を通じて夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動できる「何事にも主体的に取り組む生徒」の育成を目指すとともに、地域に根ざし、愛され、信頼される中学校づくりを目指す。そのため、以下の活動を行う。

- 伝統的な校風（明るくあいさつ、真剣な学習、活発な行事・部活動）を継承する。
- 基礎学力の確実な習得ができる丁寧な学習指導に当たり、生徒の主体的な学習（学び合い、教え合い、話し合い）活動を通して一人一人の個性を伸ばし、「学びに向かう力」を涵養する。
- 活発な部活動・特別活動を通して、主体的な、質の高い集団を育成する。
- 基本的な学習習慣、基本的な生活習慣の確立を目指し、定着を図る。
- 保護者・地域・近隣の幼稚園・小学校・関係諸機関との緊密な連携を図り、地域に愛され、信頼される中学校を目指す。

II 目指す学校像

- 1 学び合い、教え合い、話し合う中で、自ら考え、行動し、礼儀正しく、明るく素直な生徒を育て、生徒自身が誇れる学校
- 2 人権教育とキャリア教育の推進を図り、一人一人の生徒の今と将来を大切にしていることが実感できる学校
- 3 「多様な考え方を認める」「相手の立場に立って考える」「生命を大切にする」ことの指導を徹底し、いじめのない思いやりのある寛容の心、心豊かな態度と行動が表れる学校
- 4 授業規律を確立し、工夫された計画的な生徒主体の授業を行い、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、活用して、問題解決を図る「主体的・対話的で深い学び」を実現する学校
- 5 保護者と地域に学校を開き、地域に積極的に参加し、信頼される教育活動を進め、保護者・地域・近隣から信頼され愛される学校

【具体的方策】

- (1) 生徒が、授業規律や基本的生活習慣を守り、学習活動や部活動、学校行事等、何事にも主体的に行動する学校本校のよき校風である ①明るくあいさつ ②真剣な学習 ③活発な行事・部活動の推進を徹底する。
- (2) 「何事にも全力で取り組む文化」【三田中魂】を大切にし、そこから醸成される団

- 結力や豊かな人間関係【三田中愛】を基盤として、様々な教育活動を展開していく。
- (3) よき校風を発展させ、学校での基本的な学習習慣、生活習慣の定着を図るため、生徒の実情に合わせたMITAルールを定め、継続的に指導を行う。また、特色ある教育活動であるキャリア教育〈MITAキャリア学習〉の着実な実践を図り、人生において主体的な進路選択ができる力を育成する。
 - (4) 学校と地域が連携し、生徒たちのために教職員や保護者、地域住民（地区委員会）が常に意思疎通を図り、協力し合える関係性を構築する。学校運営協議会が建設的に機能し、新たな提案や改善案を話し合える場となる。

【目指す生徒像】

今後の超スマート社会(Society5.0)や人生100年時代を生き抜くため、ICT技術とともに、共感性やコミュニケーション能力のある人間性に豊かな生徒の育成を目指す。

【学校の教育目標】

- 自他を尊重し、共感し合う生徒 【共感】
- 自ら学び、考え、行動する生徒 【自立】
- 健康・明朗で礼儀正しい生徒 【礼儀】

【目指す教師像】

- 厳しく、丁寧に真剣に生徒と向き合う教師
- 生徒とともに活動する教師
- 生徒と一緒に親身になって考える教師

Ⅲ 中期的経営目標と具体的方策

1 よき校風の継承

明るいいきつ 真剣な学習 活発な行事・部活動

- (1) 明るいいきつができ、素直で礼儀正しい生徒
- (2) 多様な考え方を認める、相手の立場に立って考える、生命を大切にする生徒
- (3) 人が人として生きる上で大切な倫理観や道徳性が身に付いた生徒
- (4) 授業を大切にし、自ら学び考え、主体的に行動できる生徒
- (5) 行事や部活動を通して、生徒が全力で取り組み、達成感や充実感、協調性、団結力を味わいながら、豊かでたくましい人間関係の構築ができる生徒

2 学習指導の徹底

- (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、生徒主体の「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向け、「複線型学習」を積極的に取り入れ、教科等横断的な視点で授業改善を活性化していく。

- (2) 基本的な学習習慣を確立するために、始・終業時のあいさつ、予習・復習、チャイム着席・始業、忘れ物、私語、提出物、「聴く」姿勢・態度等、MITAルール（学習）を基本とし、徹底を図る。
- (3) 数学、英語においては少人数授業を実施する。習熟度別学習による指導を行い、個に応じた学力向上を図る。
- (4) 理科では観察・実験を多く取り入れるほか、港区立科学館での体験的な学習を通して、科学的な思考力・表現力を高める。
- (5) 音楽では和楽器（箏等）に触れる機会をつくり、日本の伝統文化を継承していく。
- (6) 授業の中では基礎・基本の徹底はもとより、長期休業中に補充授業を行って、学力向上を目指す。
- (7) 一時間の授業の指導目標をはっきりさせ、振り返りを大切に、「分かる授業」の充実を図り、授業の工夫・改善を一層推進する。また、SNA（スペシャルニーズアシスタント）の配置を行い、個に応じた支援が行き届くようにする。
- (8) 各教科が中心となり、検定（英語、漢字、数学）へのチャレンジや各種ポスターコンクール、作文・標語コンクールに応募し、生徒の個性や能力を伸ばす。
- (9) 授業力向上に向けて、全生徒に授業評価アンケートを実施し、授業の改善を図る。
- (10) 国際理解力向上のため、英語教育を充実させ、特に英語科国際の授業においてはコミュニケーション力を高める授業を展開し、豊かな表現力を育成する。また、海外修学旅行では実際に英語でのコミュニケーションを図る。さらに、異国の文化や多様性を実感させ、そこでしか得られない学びや感動を味わわせることにより、将来の人生の選択肢を広げさせる。さらに、積極的に駐日大使館と交流し、国際理解を図る。TGG（東京グローバルゲートウェイ）を活用し体験型英語学習を取り入れる。
- (11) 「考える道徳」「議論する道徳」への指導方法を工夫する。また、ICT機器を活用し友達との意見交換を積極的に進め、多様な考え方を知る。
- (12) 体育の授業、体育的行事、部活動等を通して、体力の向上と運動能力の伸長に努める。
- (13) 生徒一人一人が個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けていくため、ICT機器を効果的に活用し、時間を有効活用する指導方法の工夫を図っていく。
- (14) 環境教育の充実を図る。SDGsを視点とした持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる。ビオトープを活用し自然の中の生態系を知り、興味関心を高めさせる。
- (15) 朝読書（週5日間）を全校体制で徹底する。
- (16) 探究的な学びを通して社会と学びを近づけ、自分で深く考え追求する力やプレゼン能力等、次世代に必要な能力を育てていく。

[SDGs ラジオ、TERAKOYA プログラム、スタディサプリ等利用]

3 生活指導について

豊かな人間関係づくりをあらゆる場面で

- (1) 学校全体で明るく元気なあいさつを励行し、豊かな人間関係を育てる。
- (2) 基本的な生活習慣を確立するために服装（身だしなみ）、遅刻、身の回りの整理整頓、清潔な生活環境等、MITAルール（生活）を基本とし、徹底を図る。
- (3) 生徒会を中心とした委員会活動、日々の給食、清掃活動などの当番活動等を丁寧に指導する。このことから一人一人の「役割と責任」を自覚させ、自主的・自立的な活動を支援していくとともに、集団の中での社会性を身に付けさせる。
- (4) 学級・学年経営を充実させきまりをきちんと守る、質の高い集団づくりを目指す。
- (5) 「いじめ」に対しては、「校内いじめ対策委員会」を中心に早期発見に努め、情報を的確に把握、共有し、保護者と連携しながら早期解決を図る。常に生徒の安全・安心な学校生活に配慮し、危機意識をもって組織的で迅速な対応を心がける。
特にSNSトラブルに対しては、未然の防止対策、早期解決を図る。（セーフティ教室開催）
また、教育相談体制を充実させ、担任、学年、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが連携し、不登校生徒への早期対応に当たる。いじめ防止対策協議会を年2回開催する。
- (6) 言葉遣い（「です」「ます」をつける）については、全校体制で指導体制を整え、人権感覚に鋭敏な、豊かな言語環境を構築していく。パブリックゾーンでの配慮を意識させる。
- (7) 日常の生徒指導においては、体罰、暴言などの「強圧的指導」「不適切な指導」になることなく、心に響く・心が通じ合う、生徒に寄り添う、信頼関係に基づいた指導を繰り返し、継続的に進め、細やかで丁寧な指導を行う。
- (8) 関係諸機関と連携して薬物乱用防止教室、不審者対応訓練・防災教室、避難訓練（Jアラート訓練を含む）を計画的に実施し、生徒の安全管理体制を確立する。
- (9) 認知症について理解を深め支援できるようにするとともに、思いやりのある寛容な態度で接することができる生徒に育成するため、「認知症サポーター講座」を実施する。
- (10) がんについての正しい理解と、がんに向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さを学び、相手の立場や気持ちを思いやることやともに生きる社会づくりの能力の育成を図れるよう「がん教育講演会」を開催する。
- (11) 生命の重さ、自分や相手を思う気持ちの大切さに、あらためて気づかせる。また、心のもち方やその理解によって心身ともに健全に成長できることにつながることから、「生命の安全教育」を実施する。

4 進路指導について

「将来の夢」と「目標の実現」に向け指導する

- (1) 中学校三年間を見通してキャリア教育<MITAキャリア学習>を実践する。
- (2) 三年間のキャリア教育の計画を立て、生徒一人一人が将来の夢を考え実行でき、一步一步進めるような指導體制を構築する。
- (3) 教職員が生徒一人一人の良さを伸ばすように指導し、生徒の将来への可能性を広げる。
- (4) 将来への目標を身近な目標(スモールステップ)にすることにより、学習意欲を継続的にもたせられるように指導していく。
- (5) 探究的な学びを通して自分の未来を考え、社会の一員として自立する力を養うキャリア教育を展開する。

5 特別活動について

「何事にも全力で取り組む」集団活動を通じた主体性の育成を図る

- (1) 三田中学校二大行事(体育祭、合唱コンクール)や部活動を通して、生徒が主体的に全力で取り組める場を設定し、達成感、充実感、協調性、団結力などを通して、豊かでたくましい人間関係の形成を図れるよう指導に当たる。
- (2) 職場体験やボランティア活動など、体験活動の場を地域に広め、地域から信頼され、愛される地域の学校を目指す。(マイスクールPRコンペティション)

IV 社会に開かれた教育課程の実現

～ 学校教育を通してより良い社会をつくるという理念、信頼される教育活動の展開

- 1 社会に開かれた学校説明責任の実施、学校運営協議会の実施、三田中いじめ対策協議会の実施、関係者評価の実施、地域行事への参加(祭礼、三田カーニバル、まちぐるみ大運動会など)、PTA・地域との連携、積極的な広報活動の実施(学校だより・各学年だより・ホームページ・X・すぐーるの充実等)
- 2 各教科、部活動の生徒作品や各学年行事の写真等を掲示し、生徒の教育活動の姿が保護者・来校者に伝わるようにする。(作品展)
- 3 地域学校協働本部事業を推進し、協働して教育活動を行う。コミュニティスクールとしての地域の役割を意識した活動を展開する。

【三田アカデミー】

近隣の幼稚園、小学校との連携について ～ 幼・小中一貫教育を推進する

- | | | | |
|-----------------|----------|----------|----------|
| * 三田アカデミー目標 | ・ともに生きる人 | ・自ら行動する人 | ・社会に役立つ人 |
| * 三田アカデミー生活指導目標 | ・あいさつ | ・時間を守る | ・聞く態度 |

- (1) 三田アカデミーを中心に近隣幼稚園・小学校と合同研修会（年3回）を行い、授業公開や授業参観、情報交換を行い、幼・小中一貫教育を推進する。
- (2) 7月の第2土曜日と10月の第1土曜日に「三田オープンキャンパス」と称して、近隣小学校1年生から6年生の児童・保護者を対象に学校公開・学校説明会を開催する。

V 和やかな職場づくり、働き方改革

～ 生徒と関わる時間・良い授業のための準備時間の確保、教職員の健康維持

- 1 自分の職場に誇りと愛着をもち生徒や保護者・地域の方に教師としての熱意を伝える。
- 2 人材育成の視点に立って、職場全体でお互いを高め合い、質の高い、意欲的な教育活動を実践できるような活気のある職場の雰囲気大切に作る。
- 3 「報告・連絡・相談・記録」を常に念頭に置き、情報交換を密に行い、緊急事態には「迅速・的確・誠実」を三原則として、柔軟な対応ができる組織体制を確立する。
- 4 生徒・保護者と教員同士の潤いのある人間関係を構築するために、あいさつや言葉かけを励行し、電話の応対や来校者に対しても丁寧な接遇を心がける。
- 5 仕事の課題に対しては「一人で深刻に考えず」、「みんなで真剣に考えること」を優先し、職場全員で「健康第一」の職場づくりを心がける。
- 6 社会人として明るいあいさつ、清潔感のあるきちんとした服装、丁寧な言葉遣いを心がける。
- 7 教育の質の高さを維持しながらも仕事の効率化を図る。効率化推進のために休憩できる環境を整え、職場のライフワークバランスを心掛ける。